

令和 5 年度 相模原療育園事業報告

1 療養介護事業

1) 利用者状況

(1) 入所者 54 名 (男 25 名 女 29 名)

(2) 年齢別 (最高年齢 : 83 歳 最低年齢 : 18 歳 平均年齢 : 45.6 歳)

歳	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
男性	1	3	2	6	6	5	2
女性	1	2	4	4	12	5	1
計 (名)	2	3	6	10	18	10	3

(令和 6 年 3 月末現在)

(3) 入所者医療度

項 目	人 数
超重症児	8 名
準超重症児	2 名
気管切開	4 名
胃 瘻	13 名
経鼻経管栄養	2 名

(4) 大島分類

大島 分類	人 数
1	20 名
2	20 名
3	1 名
4	4 名
5	6 名
6	1 名
8	1 名
9	1 名

(5) 1 年間の推移

新規入所	2 名
転 所	0 名
死 亡	2 名

2) 医療

8 月に新型コロナウイルス感染症、10 月にインフルエンザ A に罹患した利用者がいたが、感染予防策を徹底し、感染拡大には至らずにすんだ。

今年度 呼吸が不安定で気管切開を行った利用者が 1 名、嚥下障害のため胃ろう造設をした利用者が 2 名おり、なんらかの医療デバイスを必要とする利用者の数が増加した。

また在宅人工呼吸器療法をおこなっている 2 名の受け入れを行った。

今年度永眠された 2 名の方には、ご家族と話し合いをしながら、緩和ケアを行った。

2 月から電子カルテを導入し、施設内での情報共有がスムーズになり、仕事の効率化をはかることができている。

3) 看護

新型コロナウイルスが 5 類となり、対策の緩和（面会等）がされたころ、2 部屋 6 人の利用者が陽性となった。その後短期利用者の入所直後の発症があった。

感染対策会議において、発熱者の対応と、外出時の対応を確認、外泊後の PCR 検査を徹底、職員個々の予防策の再確認を行ってきた。その後年内の発症は無かった。

今年度 20 歳前後の入所者が 2 名と増えたが、開園当初からの入所の方は 50～60 歳となっている。

重症心身障害による合併症は年齢と共に出現する方が増え、呼吸機能が悪化し気管切開が必要になった方 1 名、摂食嚥下機能低下により、誤嚥性肺炎を繰り返し胃瘻増設した方 2 名、大腸癌での永眠の方 1 名、全身の機能不全により老衰で永眠された方 1 名であった。その為、他院受診の件数が増えている。

3 年前から進めている ACP（アドバンスケアプラン）については、スタッフから自然に人生会議を行ってきている。そのご利用者らしい人生の看取りを多職種と一緒に考えながら実践・継続し、研修会等を開催し知識の習得に努めたい。

4) 生活支援

今年度も前年度同様 3 グループ体制で支援を実施した。今年度は 4 月に 1 名、7 月に 1 名が入所となった。

新棟移行から 1 年経過し、引き続き感染対策を行いながら、利用者の新たな環境構成を主軸に様々な支援に取り組んだ。

家族の面会については、感染対策を講じながら 1 時間の面会時間へと延長し、家族による昼食介助と日曜日の面会も再開した。家族との触れ合いにご利用者様も喜びの姿が多く見られた。

新棟移行後、初の行事を行う。夏祭りではソフトクリームやゲームで夏の雰囲気を楽しみ、マッサージ等でリラックスする場面も見られた。クリスマス会ではフルート演奏や聖歌隊の歌声等で優雅なクリスマス気分を味わえたひとときとなった。12 月にはボランティアによるクリスマスキャロリングが行われ、素晴らしい歌声に癒された時間を過ごすことが出来た。

活動に関しては、目的別のカーハイク等、利用者の個々に応じた活動に取り組んだ。カーハイクでは近隣の公園やテーマパーク、ショッピングへと外出し、散策や外気に触れ、気分転換を図った。

研修に関しては、5 名の職員が県内外での集合研修に参加し、久しぶりの対面での研修によりよい支援について学びを深めた場となった。調整会のメンバーが主体となり、安全研修等を実施し各人が自身の支援技術を再確認することができた。

人材育成に関しては感染予防を徹底し 4 校、計 10 名の保育実習、介護実習を受け入れた。

【 令和5年度 年間活動内容 】

活 動			カーハイク		
月	内容	行事・小行事 外出	所在地	外出先	体験活動
4	戸外活動「お花見」×4回 制作「桜」 エアートランポリン×2回 ムーブメント				
5	戸外活動「森&近隣散策」 戸外活動「慰霊塔周辺散策」 戸外活動「若松1丁目公園」 制作「紫陽花」 戸外活動「東大沼町内」×3回 マッサージ エアートランポリン 買い物(コンビニ)		相模原市 町田市 相模原市	イトーヨーカドー古淵店 町田リス園 イトーヨーカドー古淵店	買い物 動物ふれあい 買い物
6	スヌーズレン×4回 エアートランポリン×2回 戸外活動「こもれびの森散策」 戸外活動「近隣散策・広場」 マッサージ 外気浴&マッサージ スヌーズレン「梅雨」 スヌーズレン&マッサージ 戸外活動「慰霊塔」×2回 買い物(コンビニ) 戸外活動「大沼商店街」		相模原市 相模原市	イオン相模原店 相模原公園	買い物・おやつ 散策
7	エアートランポリン 戸外活動 スヌーズレン「セタ」 買物 スヌーズレンルーム 足浴 バランスボール×2回 新棟・旧棟の散策 ムーブメント「夏遊びをしよう」 感覚刺激「涼を感じよう」	夏祭り 「THE NATUMATURI」	相模原市 相模原市	ポーノ相模大野 相模原北公園	おやつ 散策
8	感覚刺激「海で泳ごう」 スヌーズレンルーム×3回 ムーブメント「夏遊びをしよう」		相模原市	イトーヨーカドー古淵店	買い物・おやつ
9	絵本読み聞かせ 感覚刺激「手指マッサージ」 ポッチャ スヌーズレンルーム 感覚刺激「涼を求めて」 バランスボール ポウリング 戸外活動「彼岸花を見る」 園周辺散策	ボランティアによるハンド マッサージ	相模原市 町田市 相模原市	イオン相模原店 スノービーミュージアム イオン相模原店 ヤオコー相模原鹿沼店・ スターバックス	買い物・おやつ 鑑賞・買い物 買い物 買い物・おやつ
10	リラクゼーション スヌーズレン「お月見会」 園周辺散策		相模原市 相模原市 相模原市	若松周辺 相模大野中央公園 さがみ風っ子展	散策 散策・ドライブ 芸術鑑賞
11	園周辺散策「秋を探して」 紅葉狩り PT・OTと個別活動 (楽器・バランスボール)	ボランティアによる ハンドマッサージ	相模原市 相模原市 町田市 相模原市	相模原市立博物館 淵野辺公園 薬師池公園 淵野辺公園・スターバックス	プラネタリウム 散策 散策 散策・買い物
12	園周辺散策・買い物(コンビニ) 戸外活動「大沼商店街」	クリスマス会 ・点灯式 ・賛美歌 ・フルート演奏会 キャロリング			
1	戸外活動「初詣」 スヌーズレン「プラネタリウム」 スヌーズレン・ハンドマッサージ 音楽活動	お正月お楽しみ	相模原市	イオン相模原店	個別の買い物
2	戸外活動「慰霊塔」 スヌーズレン「プラネタリウム」 外気浴&スヌーズレン 園周辺散策・買い物(コンビニ) スヌーズレン「梅雨」 足浴 制作「ホワイトデー装飾(ちぎり絵)」				
3	ポッチャ 足浴 スヌーズレン・ハンドマッサージ 園周辺散策・買い物(コンビニ) 戸外活動「お花見」 マットに降りてリラックス				

5) 薬局

今年度は常勤薬剤師 2 名で業務を行った。院内処方箋、外来処方箋の正確な調剤、院外処方箋の監査、医薬品・消毒剤等の適切な在庫管理を行った。病棟業務として定時処方箋の準備、配薬カートへの定時薬・臨時薬の充填、水剤の計量、注射剤の個人別セット、病棟配置薬の管理・昼食時の配薬など医薬品に関わる業務全般を行った。後発医薬品の出荷調整が続き、処方された医薬品の剤型変更等を数品目実施した。

薬事委員会、医療安全委員会、感染対策委員会、褥瘡対策委員会、栄養管理委員会、ケース会議に参加、他職種と連携し、チーム医療に貢献した。新規医薬品使用時は、その副作用等注意事項を利用者に係る職員に伝達した。医薬品に関する情報伝達媒体「DI ニュース」の発行を 2 か月に 1 回行った。全職員対象の「医薬品安全管理のための研修会」をポスター形式で実施し医薬品に関する様々な知識等を職員に伝達した。

院内外の研修会・学会・説明会等に積極的に参加し、専門的知識の向上に努めた。

令和 6 年 2 月からの電子カルテ稼働に伴い、医薬品マスターの整備・利用者処方の入力代行業務を実施し、電子カルテへの速やかな移行に貢献した。令和 6 年 2 月からは、薬歴記載業務を電子カルテ上で実施している。

< 処方箋発行数 > (令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月) (単位：枚)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
定時	52	56	54	55	82	57	51	56	56	56	142	58	775
臨時	170	188	153	171	195	144	205	193	218	181	151	172	2141
外来	4	5	0	4	1	6	2	9	4	3	3	5	46
注射	19	17	13	8	17	47	31	22	7	13	14	12	220

6) リハビリテーション

理学療法士 (PT) 常勤 4 名、作業療法士 (OT) 非常勤 2 名で、利用者個々の必要性に応じて理学療法と作業療法を実施した。リハビリテーション実施人数は延べ 4,765 人 (前年同期比 1,697 人増)、実施単位数は 6,299 単位 (2,162 単位増) であった。実施人数と実施単位数の増加は、育休職員の復職、新型コロナウイルス感染による影響 (スタッフの休業、リハビリテーション業務の停止など) が減少したことが影響している。

入所主担当 PT 3 名が中心となり、呼吸介助や排痰が必要な利用者に対する毎朝のカフアシスト、腹臥位による呼吸ケアと姿勢ケアを実施した。各グループのケース会議の中でリハビリテーションカンファレンスを実施した。入所利用者の補装具については第 2・4 水曜日に車いす・座位保持装置・下肢装具の定期的な修理・作製を行った。作製件数は車いす作製 5 件であった。

7) 栄養

管理栄養士 1 名、調理師 4 名、非常勤職員 3 名で食事提供を行った。10 月から 3 月は非常勤職員欠員のため、厨房業務を 1 日 4 名から 3 名にして勤務時間を変更し、使い捨て食器を一部使用して食事提供を行った。

食事量の見直しを行い、主食量のみで調整していた栄養量を副食量も変えた 1400 と 1000 の 2 つに変更した。細かい栄養量にも対応するため、主食量も選択できるように調整した。

衛生面や乾燥などを考慮して、主菜の皿に蓋をすることを開始した。

行事食として調理師考案メニューは8回実施し、その内1回は主食のパスタ料理の選択メニューを行った。開催日のお知らせはポスターを作成して掲示した。夏祭りでは「夏らしいメニュー」の要望を受けてドライカレーや冷製パスタを、クリスマス会では「デザートプレート」の要望を受けて4種類の手作りデザートを提供した。

摂食評価会議では新たな食事形態の検討を開始した。



2 短期入所事業

1) 利用者状況

(1) 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	14	18	18	16	8	14	13	14	11	16	12	11	165(名)
延日数	105	126	131	96	62	88	79	91	77	89	84	92	1120(日)

(2) 利用者年齢別

年齢	人 数		
児 童	2歳未満	0名	計 6名
	2～6歳	0名	
	7～17歳	6名	
成 人	18～19歳	7名	計 31名
	20歳以上	24名	

(3) 重症度スコアに基づく準・超重症児者数

スコア	人 数	
超重症児 (25以上)	18歳未満	1名
	18歳以上	3名
準超重症児 (10以上)	18歳未満	1名
	18歳以上	4名
医療的ケア	18歳未満	1名
	18歳以上	5名

- ・空床を利用し、緊急な受け入れ3名に応える事ができた。
- ・見学2件、事前診察4件、新規契約1件あった。

2) 医療・看護・生活支援

コロナ感染症が5類になり、6月からの感染対策はPCR検査や健康観察表の提出を終了とし、48時間個室対応のみとした。

コロナ感染がなくなったわけではなく感染者が確認されるたびに、入所を中止し感染の拡がりを抑えることができた。

8月より、看護師不足が深刻化し医療ケアのある方の入所を制限した。

年度中の医療ケアの受け入れは厳しい状況ではあったが、新規の見学や事前診察は進め、再開を待ち望む問い合わせも多くいただいた。

3) 薬局

入所時面談に同席し、短期入所者の持参薬を鑑別し、安全な服薬管理に努めた。令和6年2月より、電子カルテ上での短期入所者持参薬入力業務を実施した。

＜持参薬鑑別件数＞（令和5年4月～令和6年3月）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	12	15	15	16	6	13	12	13	8	19	10	11	150

4) 栄養

医師の食事箋に基づき食事を提供した。

アレルギーがある利用者には、個別に献立を作成し代替の食事提供を行った。

水分補給でゼリーを嚙食している方用に、必要量のゼリーを作り提供した。

3 生活介護事業

1) 利用者状況

(1) 登録18名（男6名 女12名）

(2) 年齢別（最高年齢：42歳 最低年齢：18歳 平均年齢：28歳）

歳	18～20	21～30	31～40	41～50
男性	1	1	4	0
女性	2	8	1	1
計（名）	3	9	5	1

(3) 利用者医療度

項目	人数
超重症児	3名
準超重症児	2名
気管切開	3名
胃瘻	5名
経鼻経管	3名

(4) 大島分類

大島分類	人数
1	14名
2	1名
3	1名
4	3名
5	0名
7	0名

(2) 事業実施状況

登録数	利用人数	1日平均	送迎	給食	入浴	医療的ケア	新規	解約
18名	1087名	4.5名	2,011名	816件	418件	9名	1名	1名

(3) 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	94	87	105	94	78	83	102	94	89	85	82	94	1087(名)

今年度は4月から新規利用者1名が加わり、利用者数18名（利用登録者19名）でスタートした。7月に1名（週2日利用）が当施設の療養介護利用に伴い、解約となった。空いた曜日は8月1名、10月1名の利用へと繋がった。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことにより、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者としての欠席が減ったこともあり、前年度に比べて利用人数が増加した。

4) 事業内容

日中活動では、季節に応じた活動を通して、小集団で共に充実した時間を過ごせるよう環境構成に意識や配慮をしながら取り組んだ。支援を行っていく中で、利用者の楽しむ表情やリラックスしている様子を見ることができ、少集団である事を活かした支援を提供することができた。

午後のリラクゼーションの時間には、職員のウクレレ演奏に耳を傾ける様子や穏やかな表情をみることで、食後ののんびりしたひと時を過ごしてもらうことできた。

個別支援計画では、ニーズに基づき支援計画を作成し実施した。日々の支援を通し、利用者の変化への気付きや視点の置き方等、実施や振り返りを重ねながら、より充実した支援に取り組んだ。

今年度も引き続き、神奈川県立相模原中央支援学校から1名の実習受け入れを行い、次年度1名の新規利用者へつながった。

4 外来診療

1) 医療

外来は施設長と非常勤の小児科医2名、北里大学病院精神神経科医師の計4名でおこなっている。感染対策に十分に配慮し、入館時の検温、健康チェックを徹底し、待合室で密にならないように工夫をし、来院できない場合は電話再診をおこなった。今年度の外来受診者数は延べ4,147名（前年度4,280名）で初診は79名（前年度80名）でそのうちの発達障害の患者は68名（前年度76名）であった。

2) リハビリテーション

理学療法士常勤3名、作業療法士非常勤2名の体制で行った。また臨床心理士（公認心理師）2名による心理検査を月2回実施している。

外来患者の実施人数は延べ2,109名（前年度比98名増加）、実施単位数は5,981単位（245

単位増加)であった。リハビリテーション新規患者数はPT 26名、OT 31名であった。理学療法延べ患者数1,353名(220名増加)、実施単位数3,767単位(465単位増加)、作業療法延べ患者数756名(14名増加)、実施単位数2,214単位(42単位増加)、発達検査の内訳はWISC-IV知能検査27件実施(3件増加)、田中・ビネー知能検査V 4件実施(3件減少)であった。

新型コロナウイルス感染症の感染リスク低減対策を緩和しPT2名を全曜日外来担当とし、もう2名は曜日担当制を継続した。

PT・OT・ST 個別療法実績(前年度増減)

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法	合計	前年比
延べ患者数	6歳未満	150 -9	352 -16	0 -38	502 -63	88.85%
	6歳以上18歳未満	624 119	391 27	0 -98	1,015 48	104.96%
	18歳以上	579 110	13 3	0 0	592 113	123.59%
	合計	1,353 220	756 14	0 -136	2,109 98	104.87%
単位数	6歳未満	428 -52	1,043 -47	0 -87	1,471 -186	88.77%
	6歳以上18歳未満	1,829 327	1,144 76	0 -175	2,973 228	108.31%
	18歳以上	1,510 190	27 13	0 0	1,537 203	115.22%
	合計	3,767 465	2,214 42	0 -262	5,981 245	104.27%

3) バンビとの連携

リハスタッフがバンビを訪問し、バンビスタッフへの助言と利用児童の状況確認を行っている。OTは年9回訪問し、延べ57名の児童に対応した。PTは3回訪問し延べ14名の児童に対応した。バン療会議はZoomを使用したオンライン会議とし、令和5年6月と令和6年3月に実施した。

4) 外来ケース会議の開催

月1回の外来ケース会議を実施した。主にバンビに通っている子どもについて、外来医師、外来看護師、リハスタッフが患者情報の共有を行った。

5 地域連携

1) 北里大学病院臨床研修医 地域医療研修

今年度は10月に1名の後期研修医が当施設で1か月間研修をおこなった。

2) リハビリテーション 実習生受け入れ

月	期間	実習名	学校・学部名	人数
5～7月	6週間	4年次 臨床実習 II	信州大学医学部保健学科 理学療法学専攻 4年	1名
1月	1週間	2年次 臨床実習	北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 2年	1名

3) 理学療法士による神奈川県立相模原中央支援学校訪問

平成 23 年より学校側からの求めに応じ、理学療法士 2 名が神奈川県立相模原中央支援学校を訪問し、児童・生徒の姿勢管理などについて「相模原療育園 PT 相談」として専門的な立場から教師に助言を行っている。今年度は 6 月、10 月、1 月の 3 回の訪問を実施した。合計 19 名の児童について対応した。

4) 生活支援課 実習生受け入れ

月	期間	実習名	学校・学部名	人数
7月	10日間	3年次 介護実習 I	町田福祉専門学校 介護福祉学科	2名
9月	10日間	3年次 保育実習 I	桜美林大学 健康福祉学部 保育専修	1名
11月	5日間	1年次 介護実習 I	アルファ医療福祉専門学校 介護福祉学科	3名
1月	10日間	3年次 保育実習 I	アルファ医療福祉専門学校 こども保育学科	2名
2月	12日間	3年次 保育実習 I	相模女子大学 学芸部子ども教育学科	2名

5) 医学部学生実習受け入れ

聖マリアンナ医大の医学部 1 年生を受け入れた。10 月 11・12 日に 3 名、10 月 13 日、14 日に 5 名が体験実習を行った。

6) 看護学生実習受け入れ

神奈川県看護協会の研修生を受け入れ、可能な範囲で重心看護の実際を伝えてきた。市内看護学校の小児科実習先として、重心施設の看護の実際を経験してもらっている。

6 その他

1) 職員研修

開催日	担 当	テーマ
5 月 29 日	医療安全・感染対策委員会	「日本環境感染学会教育ツール標準予防策 動画を見る」 「昨年度のインシデント対策について」
1 月 31 日	医療安全・感染対策研修会	「ノロウイルス対策について」 「イラスト KYT」

2) 施設内研修

開催日	講 師	テーマ
9 月 21 日	桜美林大学 健康福祉学群准教授 谷内孝行 氏	障害者虐待について

3) 園内実践報告会

開催日	演題名（発表者）
3 月 8 日	1. 感覚刺激から見えた利用者の一面 2. 環境変化による不安感を表出する利用者への対応と報告 3. 在宅から施設入所へ向けた生活支援の一例 4. ACP の取り組み セザリー症候群の利用者の看取りを経験して

4) 学会発表

発表者名 (共同演者含む)	演題名	学会名・場所・日程
木村 優希	脳性麻痺患者における Posture and Postural Ability Scale の信頼性と妥当性の検討 ※奨励賞受賞	第 10 回日本小児理学療法学会 学術大会 北海道 2023 年 10 月 22 日
木村 優希	歩行可能な脳性麻痺患者の立位姿勢の特徴-Posture and Postural Ability Scale を用いた検討-	第 10 回日本小児理学療法学会 学術大会 北海道 2023 年 10 月 22 日
木村 優希	脳性麻痺患者における Posture and Postural Ability Scale と PEDI の関係性	第 10 回日本小児理学療法学会 学術大会 北海道 2023 年 10 月 22 日
木村 優希	痙直型脳性麻痺児 2 症例に対するボツリヌス療法の短期的効果-Posture and Postural Ability Scale での検討-	第 7 回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会 宮崎 2023 年 10 月 22 日

田口真奈美	地域連携を活かした皮膚ケアの実践	第 48 回日本重症心身障害学会学術集会 2023 年 10 月 26 日
田口真奈美 福田 恵子	ACP の取り組みセザリー症候群の利用者の看取りを経験して	第 48 回日本重症心身障害学会学術集会 2023 年 10 月 26 日
深澤 宏昭	成人脳性麻痺者 3 例が使用する重度障害者用意思伝達装置の再適合に理学療法士として携わった経験	第 48 回日本重症心身障害学会学術集会 2023 年 10 月 26 日
木村 優希	ADOC-S による目標設定と自宅での自主的な練習により日常生活動作に変化がみられた脳性麻痺児の一症例 ※学会長賞受賞	第 40 回神奈川県理学療法士学会 Web 開催 2024 年 2 月 4 日
木村 優希	脳性麻痺患者の車椅子作製において Posture and Postural Ability Scale とカナダ作業遂行測定を用いた一例	第 40 回神奈川県理学療法士学会 2024 年 2 月（オンデマンド配信）

5) 座長

座長名	講演名	協議会名・場所・日程
細田のぞみ	相模原市の小児発達医療の現状	第 469 回相模原市小児科医会月例懇話会 ユニコムプラザさがみはら 3 月 11 日

6) 論文

武田憲子, 細田のぞみ, 小川泰子: 間欠的 TPN (サイクリック TPN) により延命し得た腸管不全の重症心身障害者の 1 例～当人とスタッフが共に得られた時間～ 日本重症心身障害学会誌 47 巻 3 号 2023 年

7) 著作

木村 優希, 阿部広和, 他: 重症心身障害を有する成人に作業選択意思決定支援ソフトによる目標設定と食事動作に焦点を当てた課題指向型トレーニングを実施した一症例. 小児理学療法学. 2024; 2: 24-32.

8) 講演会・講習会（「月」「講演者名」「講演・講習会名」「場所」の順に記載）

月	講演者名	講演・講習会名	場所
5 月	武田 憲子	疾病・治療論各論 V 小児の代表的疾患②: 免疫・アレルギー疾患、感染症、④: 消化器疾患 ⑥: 腎・泌尿器疾患、神	群馬医療福祉大学 看護学部

		経疾患、運動器・骨格器疾患 ⑦：皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患	
6 月	深澤 宏昭	チャレンジドチアインストラクター講習会 ・チャレンジドチア・パラチアの実践にあたり、 知っておきたい障害のこと ・子どもが抱える運動の不器用を知る	スピッツェンパフォーマ ンスコンディションニン グセンター
7 月	細田のぞみ	特別支援教育研修講座3 重度重複障害児の疾 病・健康管理 ～重症心身障害児にかかわる医学 的課題に焦点をあてて～	神奈川県立総合教育 センター
7 月	細田のぞみ	相模原市保育者キャリアアップ研修 障害のある子どもの理解	市民会館
8 月	細田のぞみ	相模原市保育者キャリアアップ研修 小児の発育・発達の理解と個別的は配慮を必要 とする子どもへの対応	市民会館
9 月	細田のぞみ	令和5年度教育相談スーパーバイズによる事例検 討会	神奈川県立総合教育 センター
9 月	深澤宏昭	第6回全国エデュケアハビリテーション研究会 「知的障害の健康面と身体面の変化」	みどりの家
9 月	深澤宏昭	令和5年度滋賀県理学療法士会神経理学療法研究 会「実践から考える神経発達症の理学療法」	WEB 開催
12 月	細田のぞみ	令和5年度神奈川県立総合教育センター助言会 議：これからの学校づくりに向けた総合教育セン ターの役割について	神奈川県立総合教育 センター (WEB)
12 月	樋口 滋	支援技術向上研修（介護） 身体のみかニズム、介助の方法、ポジショニング	相模原市立障害者支援 センター 松が丘園
1 月	武田憲子	令和5年度相模原市重度心身障害児者・医療的ケ ア児等看護研修事業：消化管のはなし～胃ろう・ 消化・栄養・排泄について～	相模原市民会館
1 月	樋口 滋	相模原市職員研修会 運動麻痺のある障害児の座位姿勢について	相模原市立陽光園
1 月	樋口 滋	支援技術向上研修（介護） 呼吸と呼吸障害	相模原市立障害者支援 センター 松が丘園
2 月	深澤宏昭	神奈川県理学療法士会発達支援部「発達障害児へ の支援のヒント」講習会 「発達障害の分類と特性について ～運動の不器 用さを中心に～」	WEB 開催

9) 研修・講演会参加

開催月	研修名	実施主体	参加者
4 月	第 22 回子供の福祉用具展キッズフェスタ 2023	S.P.ビームス株式会社	理学療法士
10 月	第 48 回日本重症心身障害学会学術集会	日本重症心身障害学会	薬剤師
10 月	第 10 回日本小児理学療法学会学術大会	日本小児理学療法学会	理学療法士
10 月	第 48 回日本重症心身障害学会学術集会	日本重症心身障害学会	理学療法士
11 月	令和 5 年度全国重症心身障害児施設職員 研修会「医療技術管理コース」	公益社団法人 日本重症心身障害福祉協 会	理学療法士 作業療法士
2 月	第 40 回神奈川県理学療法士学会	公益社団法人 神奈川県理学療法士協会	理学療法士